

カラーバーコード開発

既存機でも読み取り

店舗など導入しやすく

知的財産開発型ベンチャーのマイクロインテレクス（小松島市）は、モノクロ用の読み取り機に対応したカラーバーコードを開発した。店舗などにある既存の装置で読み取れるようにしたことで、情報量の多いカラーバーコードを導入しやすくした。さまざまなバーコードに応用が可能で、需要拡大を見込んでいる。

開発したのは、モノクロにカラーを重ね合わせ、二層構造にしたバーコード。モノクロ用の読み取り機では、黒とカラーの部分黒、それ以外を白と判断する。カラー用の装置ではカラーバーコードとして読み取る。

食の安全・安心などへの高まりを背景に、期限情報や製造地を盛り込んだバーコードの導入が検討されている。けた数を増やしたバーコードなどが開発されているが、情報には限界がある。

カラーバーコードはモノクロバーコードに比べて記載できる情報量が多

斉藤孝弘代表は「二次元のQRコードや色の組み合わせで理論上は無限の情報に記載できる。読み取り機にはLED（発光ダイオード）を使用するので、県のLEDバレイ構想との連携も考えている」と話している。

マイクロインテレクス